平成 20 年 12 月 4 日
国　土　交　通　省
富 士 砂 防 事 務 所

お知らせ

富士山大沢崩れの堆積土砂量調査の結果について

１．概要

富士砂防事務所では、これまでに大沢川での土石流対策事業とあわせて、源頭部における堆積土砂量についても調査を実施しておりますが、平成 20 年度の調査結果をとりまとめましたのでお知らせします。

２．概況

現在の大沢崩れの谷底部（図 1、図 2 の赤囲みの部分）の堆積土砂量は平成 19 年 10 月以降の一年間で 3 万 7 千 m^3 増加し、全体で約 32 万 3 千 m^3 となっています。また、高解像度デジタル航空カメラで源頭部を撮影した結果、崩壊が卓越する稜線上に幅 0.1～0.3m の開口亀裂が複数認められました（図 2）。今後も土石流の発生に対して注意が必要です。

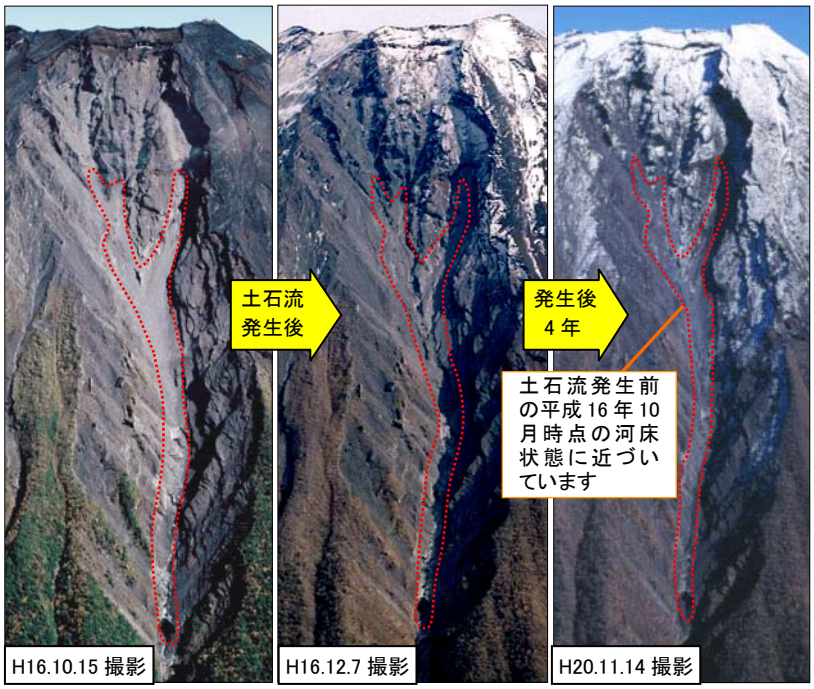

図 1 斜め写真でみる大沢崩れの変遷（谷底部の土砂堆積状況）

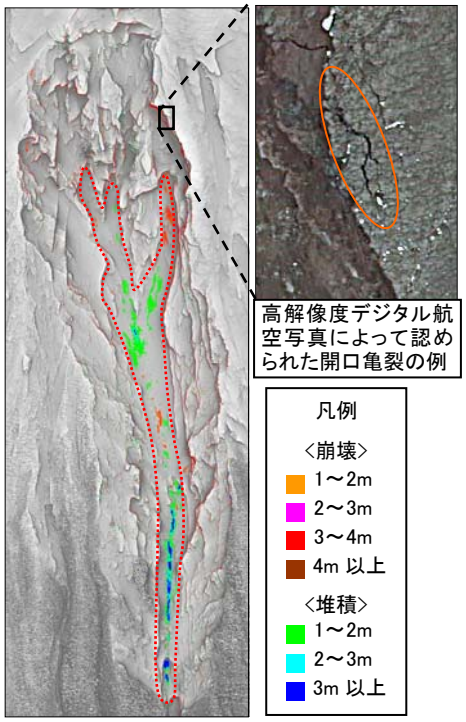

図 2 地形変動量（平成 19 年と 20 年の比較）

３．谷底部堆積土砂量の推移

平成 16 年 12 月 4～5 日未明に土石流が発生し、堆積土砂量は一旦減少しました。しかし、その後に再び堆積が進行した結果、現在では土石流が発生した平成16年12月時点と同程度の土砂が谷底部に堆積しています（図 3）。

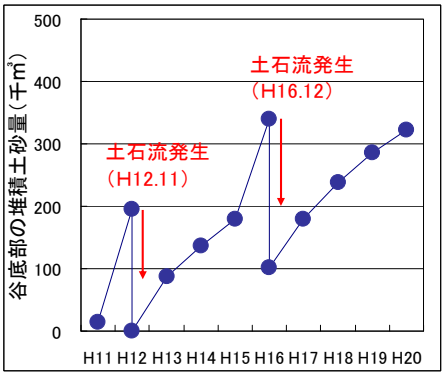

図 3 谷底部堆積土砂量の推移

４．過去の土石流発生現象

過去､大沢崩れでは､11～12 月や 4～6 月に大規模な土石流が度々発生しています。直近では、平成 16 年 12 月 4～5 日未明に大規模な土石流が発生しましたが、砂防施設（大沢川遊砂地）により土石流を捕捉し、被害の発生はありませんでした。現在も、扇状地整備を推進しており、十分な安全対策を実施していますが、想定以上の事態も考えられるので、十分な注意が必要です。また、当事務所のホームページ(URL: http://www.fujisabo.go.jp)で、源頭部での土砂崩落、過去の土石流の映像を公開しております。

５．配布先：富士市記者クラブ、富士宮市記者クラブ

６．問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局　富士砂防事務所　　ＴＥＬ：０５４４－２７－５２２１（代表）
副所長　　谷田　良三
調査・品質確保課長　永井　健二